

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2472100334
法人名	ジール株式会社
事業所名	グループホーム いなべ
所在地 (電話番号)	いなべ市員弁町畑新田五軒家367-1 (電話) 0594-84-0080
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 7 月 3 日(木)

## 【情報提供票より】 (H20年6月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.3人	

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	59,000 円~	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 700円			

### (4)利用者の概要( 6 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.6 歳	最低 80 歳	最高 92 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	山本総合病院 古田医院 ういち歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームを経営する法人は、他に有料老人ホームやショートステイ施設を経営している。設立6年目の当事業所は、最近重度化傾向にあり終末期への対応の関心が高くなり、家族等の希望により終焉までの看取りをするため、医師や訪問看護サービスとの連携を図りながら可能な限り対応をしていきたいという管理者の姿勢が利用者家族の安心に繋がっている施設である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の結果については、理念の見直し、浴室の手すりの取り付け等が改善されている。また、鍵をかけないケアについては、以前から徘徊等が問題視され検討されているが、よい解決策に到ってない。次回の運営推進会議に提案する等、万一の場合の連絡体制も含め再度検討をして頂きたい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組み、評価のねらいと意義について、運営者、管理者を交えた話し合いが行われサービスの質の確保に活かしている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は家族会と合同で年2回行われている。しかし入居者の中には、不穏状態になりやすい人がいてその対応に追われ、なかなか2ヶ月に1回の開催ができない状況である。サービスの向上に繋げて行くためにも状況をみながら開催回数を増やしていくことが望まれる。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議には家族も参加し、意見も出されている。常日頃から、意見、苦情を出しやすいように働きかけている。</p>
重点項目③	
重点項目④	<p>近隣の住民とは挨拶や言葉を交わしたり採れたばかりの野菜や花等をもたらしたりしている。自治会へは入会しているが、事業所代表者と同じ組で距離が離れているため、回覧が回されず多少疎遠気味になっている。今後、自治会との関わり方について代表者ともよく話し合い、地域の一員として活動していくにはどうするか検討することが望まれる。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの「笑顔と信頼」という理念に、「地域の中で」という言葉を添え、事業所独自の理念につくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員や利用者等にも良く目に付くところに掲示されている。管理者と職員は地域の中で「笑顔と信頼」の理念を共有しており、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人たちとは散歩の折に挨拶を交わしたり、取れたばかりの野菜や花をいただくなどして日常的なお付き合いをしている。	○	自治会への入会はあるも施設と組との距離が離れており、回覧が回されず多少疎遠気味になっているようである。近隣とは上手く行っているが自治会との関わり方、近所との関わりをさらに密にするためにも、代表者等と話し合いを持っていただくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義、目的を全職員が十分理解しており今回の自己評価は管理者と職員が協同で作成し、前回の外部評価を活かして理念の見直しに取り組み、改善が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族会との合同で年2回開催されている。	○	入居者の中に不穏状態になりやすい人がおり、その人への対応に職員が手をとられがちで、会議の準備がきちんできていない。それで制度が求める2ヶ月に1回の開催が行われていない。しかし、事業所として今後のサービス向上に繋げて行くためには、できれば開催回数を増やし話し合いをしていただく事が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や包括支援センターに出向き、事業所の状況を報告したり情報を交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求の折に「ご家族の皆様へ」の便りが発行され、健康状態や暮らしぶりなどの近況報告がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、家族会を実施する他、家族の来訪時にはいつでも意見や苦情を申し出てもらうように家族に働きかけている。実態として始終顔を見せてくれる家族は半数くらいである。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年以上、職員の離職者はなく、馴染みの管理者・職員で支援が行われ、お互いの信頼関係は築かれている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修に参加している。段階に応じた研修計画に基づいての参加ではないが交代で年1回は参加できるようにしている。中には働きながら介護福祉士等の資格を習得する職員もあり意欲が伺える。	○	法人としての研修、グループホーム連絡協議会以外の研修が少ない。できれば計画的に職員の段階に応じた研修の実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修時に、知り得た情報の交換が行われているようであるが、こうした機会を活かしながら地域的に交流するネットワークづくりまでには至らない。	○	相互訪問等により同業者との交流を一層深めることで、互いにサービスの質の向上を目指し、認知症について地域の拠点となるような取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた段階で施設見学に来てもらい、事業所の雰囲気や生活の様子を見てもらいながら徐々に馴染めるような工夫が行われている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に暮らすことでお互いの気持ちを理解しあうようになり、本人から学ぶことも多く、一方的な関係にならないような努力が行われている。		
kurasu					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者全員に話しかけ、表情の変化や態度で一人ひとりの思いや、暮らし方の希望などの把握に努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスで新たな情報や家族・職員の意見や気づきを取り入れられた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しと状態の変化が生じた場合の介護計画の見直しについては、日々の観察記録をもとに一人ひとりの丁寧な対応が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合によっては職員で通院時の送迎が行われるなど、その時々々の事情や要望に応じた、本来の多機能性のきめ細かいサービスが行われている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(協力医院)はデイケアを経営、認知症の専門医でもあり、適切な指示や助言を得ることができる。2週間に一度の訪問診療と週1回の訪問看護が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年12月に終末期を迎えられた方があり、家族、医師等を交えた話し合いが行われ、直ちに訪問看護を入れた体制がつけられ、終焉を迎えることができた。今後希望があればできる限り対応する方針である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライバシーを傷つけてしまわないよう一人ひとりに応じた対応をしている。記録や個人情報等については、事務所に保管され、しっかり管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールはあるが、各自のペースに合わせた対応に心がけ、ポツンと一人にならないよう職員一人ひとりが、全員に一回以上の声かけを心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
tekina					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理は職員でしているが、簡単な皮むきやすじ取り、食後の後片付けはできる人が手伝っており、みんなで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できるよう、毎日沸かしている。前回の評価で、浴槽の高さが指摘され、改善を前提にリフト式導入の見積りをとったが、風呂場が狭くなることにより計画が断念されている。	○	構造上の問題ではあるが、再度工夫を重ね、誰もがゆったりと入浴できるよう設備改善に取り組まれることを期待したい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字を得意とする人、おやつづくりが好きな人一人ひとりの力が発揮できるような楽しみごとの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度化により外出の頻度が最近とみに少なくなり、全員を連れ出すことの難しさがあるが、散歩、買い物等外出の工夫はされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が交通量の多い県道に面して危険が大きく、職員の気が付かぬ間に出て徘徊される方がいるため、危険回避のため施錠している。尚、ベランダからは中庭へ自由に出入りができる状態にしている。	○	運営者と全職員が、居室や玄関に鍵をかけない工夫や掛けることの弊害を話し合い、理解している。又、鍵をかけないケアに取り組んでいると思われるが、利用者の安全を確保しながら、日中は鍵をかけないですむ工夫についてさらに検討されることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、防火訓練、応急処置訓練等が年2回行われている。また夜間避難訓練を1回している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年1回は外部の栄養士にカロリー計算をみてもらい、一日平均1200カロリーが確保できるよう栄養のバランスを考慮している。また医師からの支持で水分摂取にも心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である食堂と調理場が一体になっており、調理をする職員と会話をしながら楽しい時間を過ごすことができる。全体が中間採光を取り入れ、天窓にはおしゃれなカーテンで直射日光を遮っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋のベット、クローゼット、エアコン以外は各自馴染みのものが持ち込まれ、その人らしい部屋づくりがなされている。		